

令和5年度  
シラバス

(講義・実習)

(2023年4月～2024年3月)



2 学 年

茨城歯科専門学校 歯科衛生士科

# 歯科衛生士科

## 入学者の受け入れ方針（アドミッションポリシー）

歯科衛生士の専門職を目指そうとする、以下のような資質を備えた人を求めています。

- 1 歯科衛生士になりたいという強い意志を持つ人
- 2 歯科衛生学の修得に必要な基礎学力を有する人
- 3 協調性と思いやりを持って行動できる人

## 卒業認定・称号授与方針（ディプロマポリシー）

本校所定の単位を取得し、以下の能力を身につけた者を卒業認定し、専門士（医療専門課程）の称号を授与します。

- 1 高い倫理観を持ち、歯科衛生学の基本的な知識と技術を身につけ専門職としての責務を果たすことができる。
- 2 科学的根拠を持って歯科保健活動を行うとともに、多職種とのコミュニケーションのもと地域の保健・医療・福祉に貢献することができる。
- 3 生涯を通じて自己研鑽し資質向上を目指すことができる。

# 目 次

## 2 学年

(人文科学)		(歯科保健指導論)	
心理学……………	2-1	歯科保健指導論Ⅱ……………	2-23
行動科学……………	2-3	歯科保健指導論Ⅱ実習……………	2-25
(社会科学)		栄養指導……………	2-27
社会学……………	2-5	訪問歯科保健指導……………	2-29
医療倫理……………	2-7	(歯科診療補助論)	
情報処理……………	2-9	歯科診療補助論Ⅱ実習……………	2-31
(外国語)		受付・接遇……………	2-33
歯科英語……………	2-11	(言語学)	
(口腔解剖学)		言語学……………	2-35
口腔機能学……………	2-13	(硬筆)	
(病理学)		硬筆……………	2-37
口腔病理学……………	2-15	(看護学)	
(障害者歯科学)		看護学……………	2-39
障害者歯科学……………	2-17	(隣接医学)	
(歯科予防処置論)		隣接医学……………	2-41
歯科予防処置論Ⅱ実習……………	2-19	(介護技術)	
口腔保健管理……………	2-21	介護技術……………	2-43



授 業 科 目	心理学（講義） 必修 18時間（前期）	担当教員	木村 正治
授業目標・教育方針と概要	<p>心理学を学ぶことは人間理解に役立つ。対人援助職である歯科衛生士にとって必要な、心理学および臨床心理学の基礎知識について学ぶ。また、自身の健康管理に役立つセルフコントロール法の習得も目指す。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知覚、学習、記憶、動機、感情、性格、知能などの心理を理解する。</li> <li>2. 心の発達や、社会、集団の心理を理解する。</li> <li>3. 心の健康についての理解や、ストレス対処法を身につける。</li> <li>4. 心理アセスメントと心理療法について理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第1回：授業全体の説明と見る・聞く・感じるころ  第2回：学ぶ・覚えるころ  第3回：やる気の心理  第4回：喜怒哀楽のころ  第5回：ストレスについて リラクゼーション法演習  第6回：その人らしさの心理ーパーソナリティ  第7回：発達するころ  第8回：健康なころ  第9回：心理療法</p>		

履修上の注意	授業は体験的に学ぶ演習を多用するので、意欲をもって取り組むこと。疑問や意見などは積極的に質問すること。															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 405 1281 618"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="456 636 1406 707">心理学の基礎的な理解および応用が出来るかを問う。レポートや定期試験の結果で成績評価を行う。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果をもとに、再試験やレポートを課す。															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	「行動科学」、「カウンセリング」の基礎となる。															
教科書	歯科衛生学シリーズ「心理学」 医歯薬出版															
参考書																

授 業 科 目	行動科学（講義） 必修 20 時間（前期）	担当教員	沼田 世里
授業目標・教育方針と概要	人間の行動がどのように方向づけられているのか、具体的な日常の場面を想定し、行動について考える。		
達成目標	行動科学の基本的な概念を認識し、自分や他者の行動に対して、多角的な視点から解釈ができるようになる。		
授 業 計 画	第 1 回 ガイダンス、人間の行動理論とその活用① 第 2 回 人間の行動理論とその活用② 第 3 回 人間の認知・感情 第 4 回 記憶 第 5 回 行動の動機づけ 第 6 回 ストレスと防衛機制 第 7、8 回 社会心理学 集団とは 第 9、10 回 パーソナリティと精神障害・発達障害 （※状況に応じて変更することがあります。）		

履修上の注意	<p>一般的な意見ではなく、自分自身の意思や意見を表現し、他人の意見にも耳を傾けようとすることを尊重する。</p>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="598 405 1283 620"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>可否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85～100点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～84点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60点未満</td> <td>不 合 格</td> </tr> </tbody> </table> <p>出席状況、レポート、試験により評価する。</p>	評 定	評価基準	可否の別	優	85～100点	合 格	良	70～84点	合 格	可	60～69点	合 格	不可	60点未満	不 合 格
評 定	評価基準	可否の別														
優	85～100点	合 格														
良	70～84点	合 格														
可	60～69点	合 格														
不可	60点未満	不 合 格														
水準に達しない学生に対する対応	<p>必要に応じて、再レポートもしくは試験を課す。</p>															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連する授業・演習・実験</li> <li>・ カリキュラム全体の中での位置付け</li> </ul>	<p>「心理学」の授業と相互補完的な関係にある。</p>															
教 科 書	<p>「心理学・入門」改訂版 心理学はこんなに面白い 有斐閣アルマ その他、必要に応じて配布資料あり</p>															
参 考 書																



授 業 科 目	社会学（講義） 必修 24 時間（後期）	担当教員	工藤 堅一
授業目標・教育方針と概要	<p>I) 社会学は広範な領域を研究対象としている。 本講義では身近な日常とのつながりを意識しつつ、社会学の基礎基本の一部を概観し、社会学の持つ、広さ・深さ・面白さに触れてほしい。</p> <p>II) 社会学と歯科学に対する知識と理解を深め、豊かな人間性と確かな専門性を身につけようと意欲する、期待される職能人（歯科衛生士）になってもらいたい。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職域社会の一員となる自覚を持って現代社会の特質を具体的に理解し、複雑にみえる社会の問題や現象への関心を高める。</li> <li>2. 現代社会の倫理問題を概観し、歯科医療に携わる者としての倫理観・職業観を確立する。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 社会学と私たちー社会学の発見と創造 第 2 回 社会学とはーその定義とポイント 第 3 回 社会化ー“ひと”になる過程 第 4 回 アイデンティティー自己と他者、理解と誤解 第 5 回 社会環境の変化ー正常と異常、クレーム対応 第 6 回 感染症対策についてー新型コロナと私たち 第 7 回 社会学的想像力ー歯科衛生士としての倫理観 第 8 回 医の倫理とプロフェッショナリズム 第 9 回 医療面接ー意義と目的、その方法 第 10 回 医療の質と安全ーヒヤリハットとニッコリハット 第 11 回 医療者の社会心理ー第 3 の労働「感情労働」 第 12 回 総復習及びこれからの社会学</p> <p>※授業では、前半（第 1 回～ 5 回）は医療社会学を念頭にしつつ社会学一般についての基本事項を概観し、後半（第 6 回～ 12 回）は、社会歯科学の基本事項を選択的に学習する。内容が隣接するものや多様な視点からアプローチすべきテーマは幾つかの回にわたって解説し、回ごとのテーマに広がりをもたせた講義を展開するつもりである。したがってテーマが前後する場合や新たにタイムリーなテーマを加味する可能性があることを申し添える。特に、新型コロナの状況から、院内感染対策や感染経路予防策等を中心に、安全な社会を構築する方途にも言及したい。</p>		

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートはしっかり取ること。</li> <li>・出席は毎時間取るので無断で欠席しないこと。</li> <li>・積極的な質問や発言を期待している。</li> </ul>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="595 398 1281 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本として定期試験の結果で成績評価を行う。</li> <li>ただし、授業への取り組み（出席状況、授業態度、提出物等）も加味する。</li> </ul>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験の結果によって、再試験、レポートを課す。</li> </ul>															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する授業・演習・実験</li> <li>・カリキュラム全体の中での位置付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職能人として働く場であり、暮らしを営む人生の舞台である「今、ここにある社会」に関心を持つことで、他のすべての授業にも興味関心を抱き、学ぶ意欲を喚起するきっかけになる。</li> <li>・広範な分野と新しい可能性を含んで、発展・変化し続けている科目の一つである。</li> <li>・社会歯科学という専門分野を網羅することで、受講生が将来にわたって学ぶきっかけになることを期待する。</li> </ul>															
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スタンダード社会歯科学」第8版 学建書院 テキストは、講義ではスポット的に用いるが、資料としても活用できるので、講義後の自学学習にも適している。</li> <li>なお、テキスト以外の項目は、授業で補足する。</li> </ul>															
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考文献は授業内で必要に応じて紹介する。</li> </ul>															

授 業 科 目	医療倫理（講義） 必修 16 時間（前期）	担当教員	村居 幸夫
授業目標・教育方針と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者、人間として何が大切かを明確に知ること。</li> <li>・患者中心・患者本位の医療、医療の進歩と生命の尊厳との調和などの課題について理解を深める。</li> <li>・教科書だけでなく、メディアの情報などを通して社会情勢を含めた総合的知識に基づく授業を通し、社会性・忍耐・優しさなどを知る。</li> </ul>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人（患者さん、医療関係者）との関わりを積極的に構築できる人を育てる。</li> <li>2. 医療のあるべき姿（理想的医療）を自分自身で考えられるようにする。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第1回 なぜ医療倫理を学ぶのか（P 1～9）</p> <p>第2回 医療倫理に関する規範（P10～15）</p> <p>第3回 バイオエシックス（P15～31）</p> <p>第4回 インフォームドコンセント（P32～42）</p> <p>第5回 研究と医療倫理（P43～51）</p> <p>第6回 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動（P52～65）</p> <p>第7回 その他歯科医療従事者に必要とされること（P66～72）</p> <p>第8回 医療倫理に関連する規範と法令（P73～84）</p>		

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身で考える力を育てるには多くの情報を分析し、処理する能力が必要となる。質疑応答を通し、自分の考えを相手に伝えられるように訓練する（授業中の居眠り禁止）</li> </ul>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="598 400 1283 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合格</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度（積極性、発言・質問内容・レポートなど）</li> <li>2. 出欠状況</li> <li>3. 試験成績</li> </ol> <p>※1と2と3を総合的に評価する。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合格														
水準に達しない学生に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再試験を課してその結果で判断する。</li> </ul>															
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答では考え方に違いが出るのは当然であり、その事で評価が決まるわけではない。自分の考えをいかに正確に相手に伝えられるかに重点をおいているので積極的な発言を望む。</li> </ul>															
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」 医歯薬出版															
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア（新聞、ラジオ、テレビ、ネットなど）</li> </ul>															

授 業 科 目	情報処理（講義） 必修 15 時間（前期）	担当教員	樋口 淑美
授業目標・教育方針と概要	<p>情報データのデジタル化が進む近年、コンピュータでの情報管理が一般的である。医療現場でも専用アプリケーションのみならず、基本的な情報処理技術が求められる。また、公式の場での発表などに活かせるプレゼンテーションソフトの使用・プレゼンテーション力を養う必要があると思われます。そこでこの授業では、マイクロソフト社の PowerPoint を使用したプレゼンテーションデータを作成および入力や表・グラフ作成の技術習得を目指す。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの操作とデータの扱い方に関する基礎技術を身につける。</li> <li>2. プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint 2019）の基本的な使用法を学び、業務で使用するためのプレゼンデータ作成技術を身につける。</li> <li>3. 発表時データ操作や配布資料作成・印刷の技術を身につける。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第1回 Windows の基本的な操作、文字入力の基礎  第2回 PowerPoint の操作1：PowerPoint の基礎知識・基本的なプレゼンテーションの作成  第3回 PowerPoint の操作2：表・グラフの作成  第4回 PowerPoint の操作3：図形・SmartArt グラフィックの作成  第5回 PowerPoint の操作4：図・クリップアート・ワードアートの挿入  第6、7回 PowerPoint の操作5：特殊効果の設定（アニメーション効果）  第8回 PowerPoint の操作6：プレゼンテーションをサポートする機能（発表準備・プレゼンテーション実行時の機能・配布資料印刷等）</p>		

履修上の注意	<p>パソコンの技術習得は積み重ねが大事です。毎回出席すること。私語は、講義を進める上で支障があるので、慎むこと。</p>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 405 1283 618"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p>実技試験によって、PowerPoint の使い方を習得したかどうかを確認する。 科目の成績を実技試験の成績 7 割程度として総合的に評価する。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	<p>試験の結果の状況をもとに、再試験を課す。</p>															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	<p>現在、様々な場面で PowerPoint が利用されている。 したがってこの授業の内容は、他の多くの科目に関連する。</p>															
教 科 書	<p>よくわかる Microsoft® PowerPoint® 2019 基礎 (FOM 出版)</p>															
参 考 書																

授 業 科 目	<b>歯科英語（講義）</b> <b>必修 18時間（前期）</b>	担当教員	谷萩 紀行
授業目標・教育方針と概要	<p>国民の健康に対する関心が高まるのに伴い、歯科医療業務における歯科衛生士の役割も変化している。口腔の保健を担う者として、より広い知識と高度な技能が要求され、その一環として、英語の基本を習得し、国際化にも対応する。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国人が患者として歯科医療を受ける機会に対応する内容を英語で習得する。</li> <li>2. 歯科衛生に関する専門用語を英語で習得する。</li> <li>3. 海外で活躍する場面を想定して、英語会話に精通する</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第1回 歯科英語学習の意義・必要性・授業内容の説明 学習方法の説明と基礎学力検査</p> <p>第2回 基礎学力検査の結果と評価、電話による受付・薬の注文</p> <p>第3回 急ぎの予約・健康保険</p> <p>第4回 患者さんから症状を聞き取る・病歴などの問診</p> <p>第5回 歯周病・妊娠中の注意</p> <p>第6回 クリーニングの必要性・インフォームドコンセント</p> <p>第7回 シーラント・フッ素治療</p> <p>第8回 子どもの歯ブラシ指導・大人の歯ブラシ指導</p> <p>第9回 診察後の指示・治療後の注意</p>		

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は毎時間取るので、無断欠席をしないこと。</li> <li>・授業時数が少ないので注意すること。</li> </ul>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="598 405 1283 618"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合 格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 636 1401 707">定期試験の結果だけでなく、授業態度や普段の授業で実施する小テスト・ディクテーションや練習課題の提出状況も参考にして評価する。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合 格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合 格														
水準に達しない学生に対する対応	達成段階に応じて、再試験や課題の提出を課す。															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する授業・演習・実験</li> <li>・カリキュラム全体の中での位置付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科診療室における会話文をベースに練習問題や単語・リーディングを多く用意してある。</li> <li>・歯科衛生関連教科で使用されている英語名の理解を深めて、他の教科との連携を深める。</li> </ul>															
教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科英語」 医歯薬出版															
参考書																



授 業 科 目	口腔機能学（講義） 必修 20 時間（前期）	担当教員	阿部 伸一 市川 敬一 野口 拓 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育 方針と概要	<p>口腔機能学は人体解剖学・口腔解剖学で学んだことを基礎として、歯科衛生士として日常の臨床で携わる口腔領域の動き（摂食・嚥下機能等）に対し、骨、筋、神経などの諸器官がどのように協調して行われているかということをもより詳細に習得することを目標とする。</p>		
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎歯科医学と臨床歯科医学の関連性について理解する。</li> <li>2. 摂食・嚥下機能と口腔周囲の器官の働きについて理解する。</li> <li>3. 加齢に伴う口腔周囲の器官の変化について理解する。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第1回 口腔機能学総論  第2回 摂食嚥下機能総論  第3回 摂食嚥下機能各論（関与する骨、筋について）  第4回 摂食嚥下機能各論（関与する神経について）  第5回 加齢に伴う口腔周囲の変化とその機能について その1  第6回 加齢に伴う口腔周囲の変化とその機能について その2  第7～10回 まとめ</p>		

履修上の注意	出席は毎時間取るので無断で欠席はしないこと。 わからないところは積極的に質問をすること。															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 398 1281 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="456 633 1406 703">定期試験では達成目標のリストに挙げた事柄とそれぞれの相互関係を理解しているかを見る。定期試験の結果で成績評価を行う。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合格														
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果をもとに、再試験やレポートを課す。															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	1 年次に履修した人体解剖学、口腔解剖学と臨床歯科医学を関連させる教科であると考ええる。															
教 科 書	1) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 「解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版 2) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版 3) 口腔顎顔面解剖ノート 学建書院 4) 基本のきほん 摂食嚥下の機能解剖 医歯薬出版															
参 考 書	摂食・嚥下のメカニズム 解剖生理編 井出吉信・山田好秋監修 (CD-ROM)															

授 業 科 目	口腔病理学（講義） 必修 20 時間（後期）	担当教員	橋本 貞充、村松 敬 鷲見 正美、山本 圭 （実務経験教員） 歯科医師
授業目標・教育 方針と概要	<p>口腔領域は他の部ではみられないような歯牙や歯周組織などの歯に関連する組織（歯原性組織）や唾液腺組織などがある複雑な器官であり、そこでおきる様々な疾患についての幅広い知識を得る。本教科では「受身の学問」「暗記の学問」から「理解する学問」をめざし、様々な症例や画像を多用して興味のある授業をおこなっていく。</p>		
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔粘膜疾患の病態を説明できる</li> <li>2. 歯髄疾患、根尖性病変の病態を説明できる</li> <li>3. 歯周疾患の発症メカニズム、臨床所見、病態、組織学的変化を説明できる</li> <li>4. 口腔顎顔面領域に発生する腫瘍を説明できる</li> <li>5. 口腔顎顔面領域に発生する嚢胞を説明できる</li> <li>6. 唾液腺疾患を説明できる</li> <li>7. 口腔領域の創傷治癒を説明できる</li> <li>8. 顎骨、顎関節に発生する疾患を説明できる</li> <li>9. 全身疾患と口腔疾患の関係を説明できる</li> <li>10. 他教科との関連を位置付けられる</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>2 学年 口腔病理学</p> <p>第 1 回 う蝕</p> <p>第 2 回 歯の付着物・歯の発育異常・損傷</p> <p>第 3 回 歯髄組織の病変・根尖組織の病変</p> <p>第 4 回 歯周組織の病変</p> <p>第 5 回 歯周組織の治癒・加齢</p> <p>第 6 回 エプーリス・セメント質の増生</p> <p>第 7 回 抜歯創の治癒・口腔領域の奇形</p> <p>第 8 回 顎骨病変・嚢胞（歯原性／非歯原性）</p> <p>第 9 回 口腔粘膜病変・唾液腺の病変</p> <p>第 10 回 口腔腫瘍（歯原性／非歯原性）・まとめ</p>		

履修上の注意	特になし。															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 405 1283 618"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85～100点</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～84点</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="456 636 919 667">全講義終了後に筆記試験をおこなう。</p>	評定	評価基準	合否の別	優	85～100点	合格	良	70～84点	合格	可	60～69点	合格	不可	60点未満	不合格
評定	評価基準	合否の別														
優	85～100点	合格														
良	70～84点	合格														
可	60～69点	合格														
不可	60点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	本試験と同等の筆記による再試験を行う。															
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	<p data-bbox="456 920 1406 1032">口腔病理学は、解剖学、組織学、生理学などの基盤の上で、口腔領域に生じる様々な病変を理解するものであり、実際の歯科臨床と密接に関連する。</p>															
教科書	<p data-bbox="456 1227 1401 1301">最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 「病理学・口腔病理学」 医歯薬出版</p>															
参考書	<p data-bbox="456 1431 1394 1543">歯科衛生学シリーズ 疫病の成り立ち及び回復過程の促進1 「病理学・口腔病理学」 医歯薬出版 配布プリント等</p>															

授 業 科 目	障害者歯科学（講義） 必修 20 時間（後期）	担当教員	塩野 康裕 （実務経験教員） 歯科医師
授業目標・教育 方針と概要	障害者に対して安全・快適で質の高い歯科医療を行うために、歯科衛生士として必要な障害者歯科医療についての基本的知識を習得する。		
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者について説明する。</li> <li>2. 障害者歯科の意義について説明する。</li> <li>3. 障害の種類と歯科的特徴について説明する。</li> <li>4. 障害者の行動調整について説明する。</li> <li>5. 障害に応じた歯科治療上の注意点について説明する。</li> <li>6. 障害者の歯科保健指導と口腔保健管理について説明する。</li> <li>7. 地域における障害者歯科保健医療について説明する。</li> <li>8. 障害者歯科医療におけるリスクと安全管理について説明する。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 基礎知識 障害の概念</p> <p>第 2 回 障害の種類と歯科的特徴 1 精神発達・心理的発達と行動障害</p> <p>第 3 回 障害の種類と歯科的特徴 2 神経・運動障害</p> <p>第 4 回 障害の種類と歯科的特徴 3 感覚障害 発音・構音障害 精神及び行動の障害</p> <p>第 5 回 障害の種類と歯科的特徴 4 精神及び行動の障害</p> <p>第 6 回 障害の種類と歯科的特徴 5 染色体異常に伴う障害 摂食嚥下障害 障害のある人への虐待</p> <p>第 7 回 障害児者の歯科治療 1 行動調整</p> <p>第 8 回 障害児者の歯科治療 2 健康支援と口腔管理</p> <p>第 9 回 障害児者の歯科治療 3 リスク評価と安全管理</p> <p>第 10 回 1～9 回まとめ</p>		

履修上の注意	解らないことは積極的に質問すること															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 405 1283 618"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="456 636 895 667">定期試験の結果で成績評価を行う。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果を基に、再試験もしくはレポートを課す場合がある。															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	<p data-bbox="456 920 1406 1032">障害者歯科は、保存、補綴、外科、麻酔科、予防歯科など全てを包括して障害のある人に総合的に歯科医療を行う。そのため、全ての臨床科目に関連している。</p>															
教 科 書	歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」 医歯薬出版															
参 考 書																

授 業 科 目	歯科予防処置論Ⅱ実習 (実習) 必修 30 時間 (前期・後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科衛生士
授業目標・教育 方針と概要	<p>歯科予防処置論Ⅰで学んだ基礎知識・技術を基盤として、更に臨床に応じた手技を実践できることを目的とし実習を行う。</p>		
達成目標	<p>臨床実習・臨地実習が中心となるので基本的な内容の理解とともに、技術の修得ができる。</p>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 スケーリングマニキン 立位  第 2 回 〃  第 3 回 スケーリング相互 立位  第 4 回 〃  第 5 回 歯科衛生過程 (情報収集)  第 6 回 〃  第 7 回 歯科衛生過程 (計画)  第 8 回 〃  第 9 回 歯科衛生過程 (介入①)  第 10 回 〃  第 11 回 歯科衛生過程 (介入②)  第 12 回 〃  第 13 回 歯科衛生過程 (介入③)  第 14 回 〃  第 15 回 復習</p>		

履修上の注意																
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 405 1283 618"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合 格</td> </tr> </tbody> </table> <p>実技試験 実習の際の忘れ物も評価に含まれる</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合 格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合 格														
水準に達しない学生に対する対応	実技再試験やレポートを課す															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	<p>歯科医療の基礎知識、専門的技術、他職種の専門的分野の知識を習得したことで、口腔内で起こっている情報を正しく分析し、判断し、推論して仮説を立てていく科学的思考を養う歯科衛生士教育をする。</p>															
教科書	<p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 医歯薬出版</p>															
参考書	<p>歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版</p>															



授 業 科 目	口腔保健管理（講義） 必修 20 時間（前期）	担当教員	安藤 陽子 （実務経験教員） 歯科衛生士
授業目標・教育方針と概要	<p>本科は、各教科で習得した知識を臨床でどのように実践するのか、学術と臨床を結ぶ教科。実際の症例を踏まえ、疑似体験し、本来の歯科衛生士の役割を学ぶ。</p> <p>臨床において、口腔内だけでなく、全身・心身の健康管理のできる歯科衛生士となるために、社会人としての心構えや医療人としての観察力、想像力、コミュニケーション力を向上、習得する。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科衛生士としての心構え、社会人としてのマナーを確認する</li> <li>2. 口腔疾患を理解し、分かりやすく説明できる</li> <li>3. 口腔観察・医療面接に基づき、個々に合わせた保健指導ができる</li> <li>4. 「目的」を考えながら行動することができる</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 プロフェッショナルな歯科衛生士となるために</p> <p>第 2 回 口腔疾患と口腔観察</p> <p>第 3 回 患者を知る－問診、全身疾患と薬、生活習慣、業務記録</p> <p>第 4 回 口腔内診査と歯周検査</p> <p>第 5 回 口腔清掃指導</p> <p>第 6 回 スケーリング、ルートプレーニング、PMTC</p> <p>第 7 回 〈実習〉患者を診る①－プロービングと保健指導</p> <p>第 8 回 〈実習〉患者を診る②－術者磨きと PMTC</p> <p>第 9 回 予防とメンテナンス</p> <p>第 10 回 総括</p>		

履修上の注意	本科は、総合科目でもあるため、各章の関連科目を一読し授業に臨むこと。宿題、課題は次回授業までに済ませておくこと。															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 405 1283 618"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 636 1398 667">定期試験結果及び授業態度、実習の取り組みや実技等、総合的に評価する。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	それぞれの不足点に応じた再試験やレポートを課す。															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	<p data-bbox="459 920 1398 1032">「口腔保健管理」とは、歯科衛生士業務の主幹となる重要な科目であり、すべての授業や実習との関連性があるため、それぞれの分野を十分理解しておく必要がある。</p>															
教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="459 1211 1366 1243">・ 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版</li> <li data-bbox="459 1249 900 1281">・ 日常臨床&amp;チーム医療に活かせる</li> <li data-bbox="528 1288 1398 1319">「歯科衛生士臨床 ビジュアルハンドブック」 クインテッセンス出版</li> </ul>															
参 考 書	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版															

授 業 科 目	歯科保健指導論Ⅱ（講義） 必修 16時間（前期・後期）	担当教員	専任教員 （実務経験教員） 歯科衛生士
授業目標・教育方針と概要	<p>歯科保健指導および健康教育を行うために必要な基礎知識、歯科衛生士としての役割を理解し臨床および地域歯科保健活動に対応しうる知識・技術・態度を習得する</p>		
達成目標	<p>要介護者、寝たきり者における保健行動を述べる事ができる          要介護者、寝たきり者に適した保健指導の内容を説明できる          障害老人の日常生活自立度を説明できる          口腔清掃自立度判定基準を説明する事ができる          収集した情報を分析し説明できる          地域保健活動現場の特徴を述べる事ができる          地域保健活動現場における歯科衛生士の役割を説明する事ができる          ライフステージ毎の保健指導のポイントを述べる事ができる</p>		
授 業 計 画	<p>第 1 回      ライフステージにあった対応と指導法（歯科衛生過程）          第 2 回      問題・解説解答          第 3 回      地域保健活動現場の特徴・指導法      （母子・小美玉含む）          第 4 回      〃          第 5 回      〃      （成人歯科）          第 6 回      〃      （幼稚園）          第 7 回      〃      （幼稚園）          第 8 回      高齢者媒体発表</p>		

履修上の注意	出席は毎時間とるので無断で欠席しない事 解らないところは積極的に質問する事															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 398 1281 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 636 1406 707">定期試験では到達目標のリストに挙げた事柄の意味を理解し、問題に応用してとく事が出来る事をみる。定期試験の結果で成績評価を行う</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果の状況をもとに再試験やレポートを課す															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	各ライフステージに合わせて、問題分析から解決法、動機付けからブラッシングテクニック、食生活など健康教育を実践できるよう教育する。															
教科書	最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 医歯薬出版															
参考書	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版															

授 業 科 目	歯科保健指導論Ⅱ実習 必修 36 時間 (前期・後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科衛生士
授業目標・教育方針と概要	<p>歯科保健指導および健康教育を行うために必要な基礎知識、歯科衛生士としての役割を理解し臨床および地域歯科保健活動に対応しうる知識・技術・態度を習得する</p>		
達成目標	<p>患者に実施した保健指導の手順・考え・評価を報告する          患者に適した口腔清掃方法を伝達できる          業務記録の記載ができる          幼児期・学齢期の発達段階に沿った保健教育計画を立案する          幼児期・学齢期に応じた指導媒体の工夫をする</p>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 歯科衛生過程 (介入)          第 2 回                    "          第 3 回 幼児期における歯科保健指導 (集団指導)          第 4 回                    "          第 5 回                    "          第 6 回                    "          第 7 回                    "          第 8 回                    "          第 9 回 成人者への歯科保健指導 (症例計画、発表含む)          第 10 回                   "          第 11 回                   "          第 12 回                   "          第 13 回                   "          第 14 回 幼稚園・小学校実習媒体作成          第 15 回                   "          第 16 回                   "          第 17 回                   "          第 18 回                   "</p>		

履修上の注意	基礎知識を学びながら手技を体得する															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 398 1281 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85～100点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～84点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 633 1401 745">実技試験 また、場合によっては実技試験で合格していても再チェックテストを受けることもある</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85～100点	合 格	良	70～84点	合 格	可	60～69点	合 格	不可	60点未満	不合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85～100点	合 格														
良	70～84点	合 格														
可	60～69点	合 格														
不可	60点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	レポートを課す															
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	各ライフステージに合わせて、問題分析から解決法、動機付けからブラッシングテクニック、食生活など健康教育を実践できるよう教育する。															
教科書	最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版 医歯薬出版															
参考書	歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版															

授 業 科 目	栄養指導（講義） 必修 24 時間（前期）	担当教員	埴 良子 （実務経験教員） 管理栄養士
授業目標・教育方針と概要	<p>栄養学は、食物として摂取された栄養素の体内における変化過程を中心に、その生理的意義や栄養の問題などを論じる学問である。</p> <p>栄養成分の消化・吸収についても学び、さらに実生活に役立つ食事の整え方などの知識を習得する。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五大栄養素についての栄養学的意義を理解する。</li> <li>2. 栄養素の消化・吸収を理解する。</li> <li>3. 日本人の食事摂取基準について理解する。</li> <li>4. 国民の健康と栄養の現状、ライフステージ別の栄養・調理を理解し、望ましい食生活の改善につなげる。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>介護職員初任者研修</p> <p>第 1 回 こころとからだのしくみと生活支援技術</p> <p>第 2 回 生活と家事</p> <p>第 3 回 家事援助に関する基礎知識と生活支援</p> <p>第 4 回 家事援助の実際 掃除</p> <p>第 5 回 家事援助の実際 洗濯</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>第 1 回 栄養の基礎知識 栄養素の消化・吸収</p> <p>第 2 回 栄養素の働き 糖質の栄養的意味</p> <p>第 3 回 タンパク質の栄養学的意味</p> <p>第 4 回 脂質の栄養的意味</p> <p>第 5 回 ビタミン・ミネラルの栄養学的意味</p> <p>第 6 回 水・食物繊維の栄養的意味</p> <p>第 7 回 食事摂取基準 基礎代謝・日本人の食事摂取基準</p> <p>第 8 回 食生活と健康 国民の健康と栄養の現状と望ましい食生活</p> <p>第 9 回 ライフステージ別の栄養と調理①</p> <p>第 10 回 ライフステージ別の栄養と調理②</p> <p>第 11 回 食べ物と健康 食品の成分と分類・食べ物の物性</p> <p>第 12 回 栄養指導の実際 演習</p>		

履修上の注意	<p>1. 無断欠席しないこと。 2. わからないところは質問すること。</p>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 405 1283 618"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合 格</td> </tr> </tbody> </table> <p>定期試験の結果で成績評価を行なう。 授業態度および講義中のワークシート内容を加味する。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合 格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合 格														
水準に達しない学生に対する対応	<p>定期試験の結果をもとに、再試験やレポートを課す。</p>															
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	<p>「歯科保健指導」や「歯科予防処置」に関する教科の充実のためには、特に基礎となる科目である。</p>															
教 科 書	<p>介護職員初任者研修テキスト 第3版 ミネルヴァ書房 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 「栄養と代謝」 医歯薬出版</p>															
参 考 書	<p>歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 「栄養と代謝」 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版</p>															



授 業 科 目	訪問歯科保健指導（講義） 必修 24 時間（前期）	担当教員	竹中 京子 （実務経験教員） 歯科衛生士
授業目標・教育方針と概要	在宅で生活している要介護者や障害を持った方に対し、口の健康を保ち生涯おいしく食事を味わい尊厳のある生活を保てるよう支援し、本人や家族に寄り添いながら歯科衛生士自身も喜びや生きがいを味わえ、歯科衛生士として口腔健康管理を理解し技術の向上を図る。また多職種の専門性を理解し、多職種との連携の大切さも理解する。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問口腔ケアに際して基本の心構えが出来ること</li> <li>2. 相手の心理状態や家族を理解する</li> <li>3. 訪問口腔ケアに関わる人と制度を理解する</li> <li>4. 訪問口腔ケアの目的と効果について理解できること</li> <li>5. 在宅療養者の全身状態や口腔内の観察ができる</li> <li>6. 口腔健康管理の理解</li> <li>7. 口腔アセスメント、ケアプランが作成できる</li> <li>8. 多職種を理解し連携をとることができる</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第1、2回 訪問口腔ケアに入る前の心構え</p> <p>第3、4回 訪問口腔ケアの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・麻痺の疑似体験、総合実習（くるリーナブラシ）</li> <li>・食前体操（ハロー歯ロー体操）、ごっくん体操</li> <li>・ゼリーにての摂食体験</li> </ul> <p>第5～8回 事例から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔ケアアセスメント作成（グループワーク）</li> <li>・高齢者に対する口腔機能向上</li> <li>・パッククッキング</li> </ul> <p>第9～12回 ベット上での相互実習</p> <p>寝たきりの高齢者に対する口腔ケア マナボットから学ぶ口腔ケア 義歯の取り扱い方、着脱と清掃について 局部義歯・総義歯</p>		

履修上の注意	欠席しないこと															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="598 398 1283 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85～100点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～84点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60点未満</td> <td>不 合 格</td> </tr> </tbody> </table> <p>・学科試験による評価 ・授業態度を加味して評価する場合もある</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85～100点	合 格	良	70～84点	合 格	可	60～69点	合 格	不可	60点未満	不 合 格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85～100点	合 格														
良	70～84点	合 格														
可	60～69点	合 格														
不可	60点未満	不 合 格														
水準に達しない学生に対する対応	復習と再試験で対応															
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	在宅療養が増え、尊厳ある人生を支援するための、口腔健康管理が重要である。関連する科目（高齢者歯科学、障害者歯科学、歯科保健指導）も十分理解すること。															
教科書	<p>牛山京子の在宅訪問における口腔ケア きれいな口・動く口・食べる口 医歯薬出版</p> <p>黒岩恭子の口腔リハビリ&amp;口腔ケア デンタルダイヤモンド社</p>															
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口から食べることへの支援（要介護高齢者の口腔ケア） 加藤武彦 編</li> <li>・誤嚥性肺炎を予防する口腔ケア 下巻 米山武義 小山珠美 田中靖代 黒岩恭子 共著</li> <li>・顔面体操 黒岩恭子 著</li> <li>・パッキング 山崎幸江 著</li> <li>・黒岩 恭子の口腔リハビリ&amp;口腔ケア 黒岩恭子 著</li> <li>・なぜ「黒岩恭子の口腔ケア&amp;口腔リハビリ」は食べられる口になるのか 北村清一郎 編著</li> <li>・呼吸リハビリテーション（基礎概念と呼吸介助手技） 黒澤一 佐野裕子 共著</li> <li>・よくわかる歯科衛生過程 全国歯科衛生士教育協議会 編</li> <li>・口腔機能へのアプローチ 菊谷武 田村文誉 水上美樹 編著</li> <li>・歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版</li> <li>・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 医歯薬出版</li> <li>・歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 医歯薬出版</li> <li>・歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」 医歯薬出版</li> </ul>															

授 業 科 目	歯科診療補助論Ⅱ実習 必修 30 時間 (前期・後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科衛生士
授業目標・教育 方針と概要	円滑な歯科診療補助を行うために必要な知識・技能・態度を修得する。		
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成形修復処置の流れに沿って歯科診療補助および介助ができる。</li> <li>2. 鑄造修復処置の流れに沿って歯科診療補助および介助ができる。</li> <li>3. 歯内療法処置の流れに沿って歯科診療補助および介助ができる。</li> <li>4. 歯周療法処置の流れに沿って歯科診療補助および介助ができる。</li> <li>5. 外科処置の流れに沿って歯科診療補助および介助ができる。</li> <li>6. 矯正処置の流れに沿って歯科診療補助および介助ができる。</li> <li>7. 医療安全ならびに感染予防を実施することができる。</li> <li>8. 歯科診療の補助を行うことができる。</li> <li>9. 患者に対する接遇ができる。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 復習実習① (Tec 仮着、セメント、接着性レジンセメント)</p> <p>第 2 回            "</p> <p>第 3 回 復習実習② (症例に沿って共同動作)</p> <p>第 4 回            "</p> <p>第 5 回 復習実習③ (印象採得、バキューム操作)</p> <p>第 6 回            "</p> <p>第 7 回 復習実習④</p> <p>第 8 回            "</p> <p>第 9 回 復習実習⑤</p> <p>第 10 回           "</p> <p>第 11 回           "</p> <p>第 12 回 暫間被覆冠①</p> <p>第 13 回           "</p> <p>第 14 回 暫間被覆冠②</p> <p>第 15 回           "</p>		

履修上の注意	臨床的知識を学びながら手技を体得する															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 400 1281 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 633 1276 705">実技試験（実技小テスト、提出物の採点。提出日などを含む） 実習に関して、態度・言動・準備品不足なども評価の対象となる</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合格														
水準に達しない学生に対する対応	<p data-bbox="486 745 724 775">再試験を実施する。</p> <p data-bbox="459 786 1401 857">場合によっては実技試験で合格していても再チェックテストを受けることもある。</p>															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中の位置付け	<p data-bbox="459 958 1401 1070">歯科診療補助の治療の内容や、用途にあった器材の準備や取り扱いなどの技術の習得や、チーム医療の一員としてのコミュニケーションスキルも学ぶ。</p>															
教科書	<p data-bbox="459 1162 1222 1191">最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版 医歯薬出版</p> <p data-bbox="459 1202 1334 1232">新 歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄 医歯薬出版</p> <p data-bbox="459 1243 1038 1272">最新歯科衛生士教本「歯科機器」 医歯薬出版</p> <p data-bbox="459 1283 1038 1312">最新歯科衛生士教本「歯科材料」 医歯薬出版</p> <p data-bbox="459 1323 1222 1352">第4版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末書店</p> <p data-bbox="459 1364 1318 1393">新・歯科衛生士教育マニュアル「保存修復」 クインテッセンス出版</p> <p data-bbox="459 1404 1318 1433">最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患「保存修復・歯内療法」</p> <p data-bbox="1262 1444 1401 1473">医歯薬出版</p>															
参考書																

授 業 科 目	受付・接遇（講義） 必修 20 時間（前期）	担当教員	田寺 尚子
授業目標・教育方針と概要	<p>受付・接遇対応能力を高める事により医療現場・医院への患者からの印象を高める事ができる。すなわち接遇能力を習得することは、医療現場のサービス向上、患者との信頼関係の構築、トラブルや苦情のリスク管理の視点から、必須の課題である。</p> <p>この講義では、接遇の基本と現場における具体的な言動について実践的に学ぶとともに、歯科衛生士としての心構えや対応・マナーについて自ら考える機会を設け、実践レベルでのスキルを習得する。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 接遇の基本を学び、医療現場で対応できる言葉、態度を習得する。</li> <li>2. 職場における対応・マナーについて学び、実践できる能力を習得する。</li> <li>3. 話し方、苦情対応などについて学び、適切なコミュニケーション能力を習得する。</li> <li>4. 以上を踏まえ、ドクターとの接し方・言葉づかい、また効果的なチームワークの大切さを習得する。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 接遇とは（第一印象の大切さ、挨拶の基本、身だしなみ、態度）</p> <p>第 2 回 敬語と文章（敬語の使い方、信頼関係を築く言葉づかい）</p> <p>第 3 回 傾聴力、質問力と確認、伝え方</p> <p>第 4 回 患者様視点を考えたコミュニケーション</p> <p>第 5 回 受付・診療室の対応（基本と実践）、ロールプレイング</p> <p>第 6 回 電話対応（電話対応の基本、心構え、マナーのポイント）</p> <p>第 7 回 電話対応ロールプレイ（電話を受ける、かける、苦情対応）</p> <p>第 8 回 自己理解と患者様理解</p> <p>第 9 回 捉え方と感情理解について</p> <p>第 10 回 クレーム対応（診療室での事例対応、仕事上手になるために）と発展</p>		

履修上の注意	<p>参加型の授業とし、発言や発表を投げかけ、実践形式の学習を行う。          現実に起こりうる状況において適切な対応ができるよう、体験学習のためのロールプレイを行う。          積極的に取り組んで練習すること。          欠席した場合は、その単元についてのレポートを提出すること。          受講の服装は、原則として臨床実習と同様に身だしなみを整えること。</p>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 461 1281 678"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>可否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業において、敬語や話し方、マナーについて随時、練習問題を行い、確認作業を行う。          最終筆記試験により、練習問題で行った総合的な内容についての理解度を評価する。          実践的能力は、授業においての実践形式学習における接遇能力について判断し、評価を行う。          成績は、上記を総合的に判断して評価する。</p>	評 定	評価基準	可否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不合格
評 定	評価基準	可否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	<p>試験の結果や実践学習の状況をもとに、再試験や再レポートを課す。</p>															
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	<p>診療所、市町村保健センター、介護施設、小学校等への校外実習における挨拶の仕方や実習態度、言葉づかい、また、歯科衛生士としての心構え・気配りなどに通じる。          学校生活における人間関係のコミュニケーションや、すべての授業の受講態度の基礎となる。</p>															
教科書	<p>「医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト」改訂版          日本能率協会マネジメントセンター</p>															
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇研修（財団法人公務研究協議会）</li> <li>・接遇インストラクター指導者マニュアル（日総研）</li> <li>・歯科スタッフのマナーと実践マニュアル（財団法人口腔保健協会）</li> <li>・平林郁の接遇道 人を喜ばせる応対のかたちと心（大和書房）</li> <li>・患者さんの心と信頼をつかむコトバづかいと話し方（クインテッセンス出版）</li> <li>・院内での正しいマナーとコトバづかい（クインテッセンス出版）</li> </ul>															

授 業 科 目	言語学 (講義) 選択 16 時間 (後期)	担当教員	櫻井 豪人
授業目標・教育 方針と概要	<p>歯科衛生士として必要な日本語の運用能力を身につける。具体的には、歯科衛生士として適切な文章表現ができるようになるために、「実習手帳」の書き方について、実際の例文を通して実践的な学習をおこなう。一斉講義的な授業ではなく、各学生と対話しながら授業を進める。</p>		
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「実習手帳」に記入する文章として適切な言葉遣いや表記ができるようになること。</li> <li>2. 主語・述語の対応や副詞の呼応、適切な助詞や接続詞の使用など、構文的な関係性について学び、構文的に整合性の取れた文章が書けるようになること。</li> <li>3. 日本語として不適切な表現について、自ら気づいて修正できるようになること。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第1回 イン트로ダクション：なぜ適切な文章表現をしなければならないのか</p> <p>第2回 話し言葉と書き言葉は違う</p> <p>第3回 適切な表記</p> <p>第4回 適切な敬語表現・適切な間接引用</p> <p>第5回 構文の整合性</p> <p>第6回 不適切な表現に気づこう</p> <p>第7回 これまでの復習・変な言い回し</p> <p>第8回 総合問題</p>		

履修上の注意	<p>プリントを配布して説明しつつ、例題を受講者全員に当てて解かせる形式をとる。</p>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="598 405 1283 618"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合 格</td> </tr> </tbody> </table> <p>最終日の試験により評価する。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合 格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合 格														
水準に達しない学生に対する対応	<p>再試験により対応する。</p>															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	<p>言語学とは、日本語の運用能力を身につける科目となる。適切な文章表現ができるよう十分理解しておく必要がある。</p>															
教 科 書	<p>配布プリントにより授業を進める。</p>															
参 考 書	<p>授業中に紹介する。</p>															



授 業 科 目	硬 筆 (講義) 選 択 16 時 間 (前 期)	担 当 教 員	江 森 葵 鷲
授 業 目 標 ・ 教 育 方 針 と 概 要	相手に読める文字、正しく丁寧に書くことを基本としさらに美しい文字が書けるようにする。		
達 成 目 標	文字本来の形を自分勝手に変えたり、なぐり書きをせず正確な文字が書ける事		
授 業 計 画	第1回 ひらがなの練習 第2回 ひらがな連綿とカタカナの練習 第3回 漢字の基本と行書のポイント 第4回 部首の書き方 第5回 名前の練習 (楷書) (行書) 第6回 手紙の前文の書き方 第7回 ハガキの基本練習、実践練習 第8回 横書きの練習 履歴書の書き方		

履修上の注意	私語を慎み集中して行う															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="598 398 1283 613"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85～100点</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～84点</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 658 1133 687">授業が終わってからテストを行い、それによって判断する。</p>	評定	評価基準	合否の別	優	85～100点	合格	良	70～84点	合格	可	60～69点	合格	不可	60点未満	不合格
評定	評価基準	合否の別														
優	85～100点	合格														
良	70～84点	合格														
可	60～69点	合格														
不可	60点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	再テストを行う															
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	姿勢を正し、きれいな字を書くことで日常生活においても、丁寧な字で心を整えることができる科目である。															
教科書	こちらで作成したもので行う															
参考書	ボールペン字練習帳 和田 康子															

授 業 科 目	看護学（講義） 選択 20 時間（前期）	担当教員	堀川 彰子 （実務経験教員） 看護師
授業目標・教育 方針と概要	<p>看護とはなにか、また看護の対象である人間とはどんな存在であるかを学び、看護の目的である人間の健康について基本的な事項を知る。また様々な理由で生活支援を要する人々の心と体の仕組みについても理解する。</p>		
達 成 目 標	<p>1. 看護の対象者としての人間を学び、よりよい生活支援の方法が分かる。 2. 健康な生活を送るための環境を学び、その健康問題と改善の方向性が理解できる。</p>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 看護とは（1）（看護概念の歴史と看護の概念） 第 2 回 看護とは（2）（看護の目的・対象・方法） 第 3 回 看護の対象（1）（看護からみた人間の理解） 第 4 回 看護の対象（2）（人間の生活と人の理解） 第 5 回 看護の対象（3）（患者の理解） 第 6 回 健康と保健・医療・福祉（1）（健康の価値、健康観、概念） 第 7 回 健康と保健・医療・福祉（2）（保健・医療・福祉のしくみと看護） 第 8 回 看護活動・看護の実施（1） （看護活動の種類、疾病の経過と看護活動） 第 9 回 看護活動・看護の実施（2）（継続看護、医療安全、感染管理） 第 10 回 看護と倫理（看護者と倫理、医療上の倫理的問題）</p>		

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義は欠席のないようにすること。</li> <li>2. 既習の学習内容を統合し活用すること。</li> </ol>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="598 398 1283 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合 格</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主観的問題と客観的問題を組み合わせて筆記試験を行う。</li> <li>2. 筆記試験のほか、レポート・授業態度・出席状況などを加味して総合的に評価する。</li> </ol>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合 格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合 格														
水準に達しない学生に対する対応	再度試験又はレポートを課す。															
・ 関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	<p>現在、医療・看護・福祉の分野において包括的な取り組みがなされ、他職種との連携が不可欠である。なかでも広域的に活動し、医療関係職種のなかで最大の従事者数を持つ看護職の概要を理解することは、医療・福祉分野を理解する一助となる。</p> <p>同時に、歯科衛生士の職務の対象は人間であり、人間の理解、また健康問題を通しての課題解決の方法を学ぶ本科目は、将来の職務実践上きわめて重要となる。</p>															
教 科 書	新看護学 5 「基礎看護 [1] 看護概論」 第 16 版 医学書院															
参 考 書	介護職員初任者研修テキスト 第 3 版 ミネルヴァ書房 必要に応じプリントを配布する															

授 業 科 目	隣接医学（講義） 選択 16 時間（前期）	担当教員	仙波 美千世 （実務経験教員） 看護師
授業目標・教育 方針と概要	人々は、生まれてから死を迎えるまで、疾病予防から治療、介護に至るまで、健康の多様なニーズに応じた保健医療福祉サービスの提供されることを期待している。ライフサイクルと健康について学ぶ。		
達 成 目 標	授業で学んだことを臨床場面で応用出来るよう理解を深める。		
授 業 計 画	介護職員初任者研修 第 1 回 老年期の発達と老化に伴うところとからだの変化と日常 第 2 回 高齢者と健康 第 3 回 高齢者と健康 第 4 回 介護に関するところのしくみの基礎的理解 第 5 回 //		
	第 1 回 ライフサイクルと健康 第 2 回 人々の健康状態 第 3 回 生活習慣病① 第 4 回 生活習慣病② 第 5 回 健康増進対策① 第 6 回 健康増進対策② 第 7 回 保健医療チーム 第 8 回 終末期の介護		

履修上の注意	他の教科とも関連するので、復習をする。															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 398 1281 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不 合格</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="456 633 1230 667">筆記試験とレポートと講義の出席と授業の理解度で評価する。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不 合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不 合格														
水準に達しない学生に対する対応	再試験や追試験での結果を加味して総合的に評価する。															
・ 関連する授業・演習・実験 ・ カリキュラム全体の中での位置付け	<p data-bbox="456 936 1406 1010">疾病予防から治療、介護に至るまで関連する科目も理解し、臨床において応用につながる科目となる。</p>															
教 科 書	介護職員初任者研修テキスト 第3版 ミネルヴァ書房															
参 考 書	授業によるプリント															

授 業 科 目	介護技術（実習） 選択 30 時間（前期）	担当教員	生駒 みよ子 （実務経験教員） 介護福祉士
授業目標・教育 方針と概要	<p>訪問介護員として介護保険の利用者にサービスを提供するにあたり、援助方法を学ぶ。</p> <p>介護保険（ケアマネージャー）が作成するケアプランに基づき、利用者の要望を取り入れ充実した生活が在宅で継続出来るよう介助することを学ぶ。</p>		
達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアマネジメントの定義と歴史を学ぶ。</li> <li>2. ケアマネジメントの目的、方法を学ぶ。</li> <li>3. 介護保険制度から学ぶ、利用者の個別援助計画の作成</li> <li>4. 介護技術、介護の方法、介護に必要な基礎知識。</li> </ol>		
授 業 計 画	<p>第 1 回 相談援助とケア計画の方法</p> <p>第 2 回 訪問介護計画の作成と記録・報告の技術</p> <p>第 3 回 基本介護技術</p> <p>第 4 回 ベッドメイキングの方法、基礎知識</p> <p>第 5 回 腰痛の予防と援助者の健康管理</p> <p>第 6 回 体位、姿勢交換の介護</p> <p>第 7 回 車椅子への移乗、移動などの介護</p> <p>第 8 回 障害者の歩行の介護</p> <p>第 9 回 衣服着脱の介護</p> <p>第 10 回 入浴の介護</p> <p>第 11 回 排泄、尿失禁の介護</p> <p>第 12 回 障害者に応じた食事の介護</p> <p>第 13 回 糖尿病、高脂血症などに対する特別食</p> <p>第 14 回 緊急時対応</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		

履修上の注意	<p>出席は毎時間とるので欠席しないこと。  準備するものがある授業では事前に連絡する。忘れ物をしない。  介助出来るような服装で行う。</p>															
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	<table border="1" data-bbox="596 400 1281 613"> <thead> <tr> <th>評 定</th> <th>評価基準</th> <th>合否の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>85 ～ 100 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70 ～ 84 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60 ～ 69 点</td> <td>合 格</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60 点未満</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table> <p>介護技術では、1コマ毎に小テストを行い授業での復習をする。  介護技術終了後は、総合テストを行い成績評価とする。</p>	評 定	評価基準	合否の別	優	85 ～ 100 点	合 格	良	70 ～ 84 点	合 格	可	60 ～ 69 点	合 格	不可	60 点未満	不合格
評 定	評価基準	合否の別														
優	85 ～ 100 点	合 格														
良	70 ～ 84 点	合 格														
可	60 ～ 69 点	合 格														
不可	60 点未満	不合格														
水準に達しない学生に対する対応	<p>やむを得ない欠席や、介護技術の中で困難なところは、数回復習してもらう。  欠席された時間は補修で補う。</p>															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連する授業・演習・実験</li> <li>・ カリキュラム全体の中での位置付け</li> </ul>	<p>介護技術は身近な場面で介助を必要とすることなので、しっかりと身に着けることが大切である。</p>															
教科書	<p>介護職員初任者研修テキスト 第3版 ミネルヴァ書房</p>															
参考書																



## ～歯科衛生士の誓い～

私たちは将来歯科衛生士として、歯科医師と共に、歯科疾患の予防および口腔衛生の向上のために、その任務を忠実に守ります。

ここに臨床の場にのぞむに当たり、とくに次のことを誓います。

1. 常に自分の最善の力をつくして歯科衛生の向上につとめます。
1. 技術をみがき、知識を吸収することにつとめます。
1. 常に勇気を以て自分の学んだことを実行します。
1. 公共の場所では調和を守り、十分な共同のもとに仕事をすすめます。
1. 診療の機会に見聞した患者さんの個人情報を守ります。



茨城齒科専門学校校歌

誓い

作詞 牧厚志  
作曲 牧厚志

Musical score for '誓い' (Vow) in G major, 4/4 time. The score consists of eight staves of music with lyrics written below. The lyrics are: 水戸の城下 西南の 千波の湖上 風さやか 学びのわざを 磨きゆく 真理の道を 求めゆく 偕楽の梅 今香る 微笑みたたえ この胸の 愛しむ心 育み 友よ 明日の 夢をもて 那珂川のせせらぎ 水清く 溢れる 希望 満天の この青春の 輝きと 誓いし心 永久に

茨城齒科専門学校校歌

誓い

作詞 牧厚志  
作曲 牧厚志

水戸の城下 西南の  
千波の湖上 風さやか  
学びのわざを 磨きゆく  
真理の道を 求めゆく  
偕楽の梅 今香る  
微笑みたたえ この胸の  
愛しむ心 育み  
友よ 明日の 夢をもて  
那珂川のせせらぎ 水清く  
溢れる 希望 満天の  
この青春の 輝きと  
誓いし心 永久に

